

都道府県別にみた労働力人口についての特殊従属人口指数	山口 喜一 技官 矢島 昭子 技官
「高年齢者世帯」の構造についての子備的考察——山形県一農村の事例分析——	清水 浩昭 技官
地域人口（問題）研究のためのノート	柴田 弘捷 技官
わが国の1960年代の出生力研究の動向	白石 紀子 技官
希望どおり子供を持ったときの日本人口	伊藤 達也 技官 池ノ上 正子 技官
昭和47年第6次出産力調査報告：	
(その13) 女性のライフ・サイクルの一試算	青木 尚雄 技官
(その14) 住宅と家族規模	渡辺 吉利 技官
都道府県別標準化出生率：1965年と1970年との比較	山本 道子 技官
結婚および離婚の届出状況：昭和25～45年	金子 武治 技官
死産票および死亡票から得られた無脳症の発生率の地域格差	今泉 洋子 技官 井上 房美 技官
幼児、老人の事故死と居住地の環境	廣嶋 清志 技官
年齢と食行動	内野 澄子 技官
「過疎問題」と学校統合	若林 敬子 技官

エスカップ地域の世界人口会議事後協議会

1975年1月14日から20日までの間、アジアおよび太平洋地域経済・社会委員会（ESCAP）の「世界人口会議後の地域協議会（Regional Post-World Population Conference Consultation）」が、国連人口部（The United Nations Population Division）および国連人口活動基金（The United Nations Fund for Population Activities）の共催の下に、バンコクのエスカップ本部において開催され、本研究所黒田俊夫所長が日本政府代表として出席した。なお、代表代理として厚生省大臣官房企画室浅野楯悦計画官もこれに参加した。この協議会には、日本を含めて26か国の政府代表が参加したが、このなかには、域外（カナダ、フランス、オランダ、スウェーデン、イギリス、ソビエト連邦およびアメリカ合衆国の7か国）からの代表も含まれている。

今回の会議は、昨年8月のブカレストにおける世界人口会議の成果をさらに具体化するためのもので、中心議題は、エスカップ事務局が準備した「開発のための人口戦略のプログラムと手段についての提案」の審議にあった。この提案については、審議を円滑に進めるため地理的地域を単位とした三つの班が編成され、それぞれの班ごとの審議結果の報告書を総会で取りまとめる方法が採られた。審議の重点は、ブカレストで採用された「世界人口行動計画」ならびにこれに関連して同年5月バンコクで行なわれた地域協議会の勧告に関するものであった。

この協議会の会議内容については、本誌前号「資料」欄に詳細が掲載されているので（黒田俊夫稿「世界人口会議後におけるエスカップ地域協議会の概要」）それを参照していただきたいが、参考までに、ここにも議題を示しておくとおりのとおりである。

AGENDA

1. Opening addresses
2. Election of officers
3. Adoption of agenda
4. Review of the basis for and components of a population strategy for development

- (a) Review of the World Population Plan of Action, the Declaration of a Population Strategy for Development, and other guidelines for action in the light of the requirements and conditions of countries of the ESCAP region
- (b) Proposals for programmes and measures comprising a population strategy for development
- 5. Implementation of the proposals, including means of incorporation in development planning, and international co-operation and co-ordination
- 6. Adoption of report
- 7. Closing ceremonies

(山口喜一記)

第18回国際連合人口委員会

1975年2月18日から28日まで、ニューヨークの国連本部において、第18回国連人口委員会 (Eighteenth Session of the United Nations Population Commission) が開催され、本研究所長である黒田俊夫委員が日本政府代表としてこれに出席した。

国連人口委員会は27か国をもって構成されているが、今回の会議にはオブザーバーとして、23の非メンバー国と国連の加盟国ではない Holy See とが代表を派遣した。

第18回人口委員会の会議議長には、フィリピンの Miss Mercedes B. Concepción が、副議長にはルーマニアの Mrs. V. Russ, ガーナの Mr. K. T. de Graft-Johnson およびコスタリカの Mr. V. H. Morgan が、ラポターにはオランダの Mr. D. J. van de Kaa が、それぞれ前回到引続いて再選され、これらの役員の下に議事は進行した。

会議の内容は、本誌「資料」欄に詳細が掲載されているので、ここには議題を次掲するにとどめる。

AGENDA

- 1. Election of officers
- 2. Adoption of the agenda
- 3. Implications of the World Population Conference
 - (a) General debate
 - (b) Actions to implement the recommendations of the World Population Conference at the national and international levels
 - (i) Monitoring of population trends and policies
 - (ii) Arrangements for the review and appraisal of progress made towards achieving the goals and recommendations of the World Population Plan of Action
 - (c) Implications of the Conference for United Nations legislative bodies
 - (d) Implications of the Conference for strengthening of the relevant units of the Secretariat
 - (e) Recommendations to the Economic and Social Council
- 4. Report on the World Population Year 1974
- 5. Report on the progress of work
- 6. Biennial work programme (1976-1977), medium-term plan (1976-1979) and long-term Perspectives
- 7. Draft provisional agenda for the nineteenth session of the Commission
- 8. Adoption of the report of the Commission

(山口喜一記)